

KSK

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3F 横浜市車椅子の会内

あゆみ会報

編集 湘南あゆみ会
〒254-0807 平塚市代官町21-4 SEA平塚ビル3F フレンズ湘南内
TEL/FAX 0463-24-0420
定価 50円（会員は年会費に含まれています）

2025年1月号 第209号

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

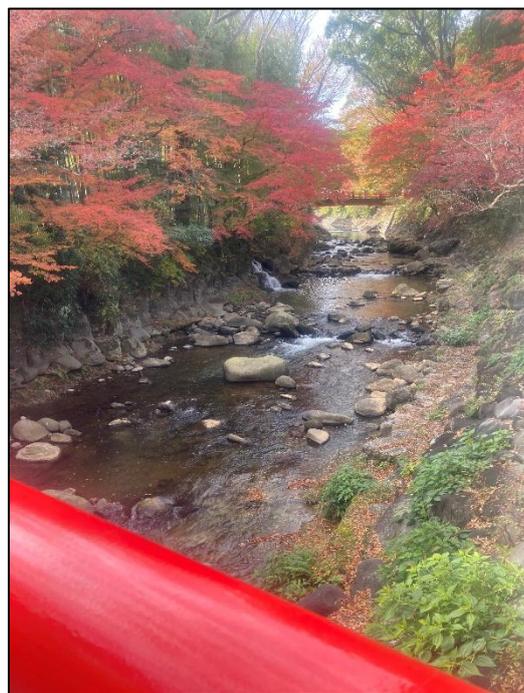
世界を見渡すと戦禍は止まず、民主主義の危機を感じる昨年でした。日本国憲法第12条では 国民は自分達が持つ権利と自由を手放さないように 国家に任せるだけではなく国民自身の不断の努力が必要だと書いてあります。微力でも意識していきたいと思えます。



報告

●家族会秋のバス旅行 伊豆・修善寺を訪ねて 12月5日（木）会員12名当事者8名

朝8時、平塚駅前に集まり、20人揃ったところで出発。天気にも恵まれ、紅葉の箱根新道を進みました。弘法大師空海が807年に開いたと伝わる修善寺にお参りし、温泉街を散策。桂川沿いの竹林の小径、輝く紅葉の中をゆっくり歩き、北条政子が建てた古いお堂なども見て、忙しい日常を離れて癒されました。



韮山代官屋敷で昼食（麦とろろやお蕎麦など）を美味しく頂き、再びバスで丘陵地を活かした虹の郷へ移動し、伊豆最大級の紅葉群生林を見ました。参加した当事者の人からもこんなに沢山の真っ赤に染まった紅葉を見たのは初めてで素晴らしかったとの感想を頂きました。

●藤沢ふれあいフェスタ2024参加

12月7日（土）11時～15時、藤沢市役所の本庁舎、分庁舎において開催されました。本庁舎の一階には 障がい者団体のお店がところ狭しと並び、みんなの笑顔があふれていました。

市役所の分庁舎の2階ブースでは 障がい関係団体のポスターが掲示され、盲ろう体験などが行われました。おおぜいの来場者があり、ふれあいフェスタ2024に関するアンケートには200人以上の回答があったということです。

2025年にデフリンピックが開催されます。聴覚障がい者の方は 身体は健常者と変わらないのでパラリンピックには出場できないのだそうです。だからデフリンピックという大会が別に開催されるのだと 初めて知りました。手話教室も楽しかったです。

会場内は音楽が盛大に流れ、大変にぎやかでした。

●こんぺいとうお茶会参加 12月14日（土）中央公民館3F和室 13:30～15:30

ビックリするほど広い畳敷きの部屋に三つテーブルが置かれ、参加費100円を払い、数人ずつ自由に座ってお話ししました。来る時間も帰る時間も人それぞれで お茶とお菓子をつまみながらのんびりした時間を過ごしました。

元市議員の人の参加もあり、中央公民館の建て替えの話などいろいろな情報交換が出来ました。

普段お顔は分かっている方も ゆっくり話せなかった方と ゆったりした雰囲気の中でおしゃべりできました。



●平塚市自立支援協議会 精神分科会 12月17日 平塚保健福祉事務所 14～16時 参加者 15名

①富士見台病院のリワークプログラムの紹介がありました。リワークプログラムとは うつ病や適応障害などで休職している方の「職場復帰」や「再休職防止」を支援するプログラムです。

・対象者…うつ病や適応障害で休職中の方

復職する意志のある方

精神科又は心療内科通院中で主治医の許可のある方

（他の医療機関に通院中の方も主治医を変更せずに受講可能）

・期間…3ヶ月 プログラムは3ヶ月で終了するように組まれていますが 利用期間は体調や個々の目標により個人差が出る。週2日から少しずつ通所日数を増やし、最終的に週5日となる。直近1ヶ月の出席率が90%以上で卒業と認められる。

②令和6年度平塚市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築に関わる研修会の報告

11月29日 平塚美術館ミュージアムホール

「窓口対応力アップ研修」

- ・目的…窓口担当者が対応に困る（怒鳴る、頻回相談）事象に関連する疾患（疾患以外の場合もあることも説明）の基礎の理解と対応を学ぶ
- ・対象…平塚市役所窓口担当職員 地域包括センター等（職員45名 関係機関等17名 参加）
- ・講師…神奈川県精神保健福祉センター 山田正夫医師
- ・参加者の感想 一部抜粋
 - ・精神疾患も様々なので継続して研修会を実施してほしい。
 - ・傾聴することについては問題ないが、その相手に理解してもらう必要がある時、どうすればいいのかも知りたい。
 - ・電話での相談を受けることが多く、なかなか話を切り上げることができず、長くなってしまうことが多くありました。今日の研修で相談の目安の時間や切り上げ方のヒントを頂き、大変参考になりました。
 - ・病識がなく精神の受診ができない方の支援に困っています。保健所の来所相談にもお連れすることが難しいので ぜひ訪問での対応をしてほしい。
 - ・福祉の知識のない職員は窓口で正論を言ってしまうがちです。認知症があったり、妄想があったりした場合は、聞き流すといったことも大切だということを伝えていきたい。

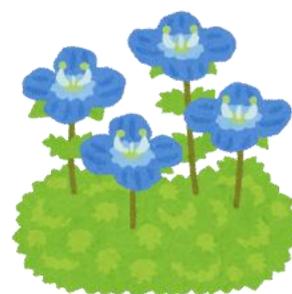
③精神分科会のこれからの予定

高齢者支援機関連絡会・アウトリーチ連絡会合同研修会 2月28日14～16時 保健センター
在宅支援関係者が精神科長期入院者に関する制度や支援方法について理解を深める

日中活動系事業所連絡会研修会 3月24日 17:30～21:00

勤労会館

日中活動系事業所従事者が精神科医療との連携や活用について
理解を深める



●サロンあゆみ 自由交流会 12月20日（金）13：00～15：30

市民活動センターC会議室 参加者12名

この日は筑波大学医学医療系ヒューマン・ケア科学専攻の福士浩さんが オープンダイアローグの研究のためのアンケートを取るために参加されました。

福士さんの兄（58才）は統合失調症で20年以上長期入院をしています。薬物と入院だけの治療に限界を感じ、海外の治療法を探し、2016年頃オープンダイアローグを見つけたそうです。

20年間ずっと会えていなかった兄の所に この数年は2ヶ月に1回の頻度でお見舞いに行きました。「先入観を持たずに否定せずに聴く」、「兄のいない処では決定しない」などを踏まえて対話し、寄り添いました。

選択肢がない状況で 止む無く電気治療をした時期もありましたが、現在は外泊もできる様になり、少しずつですが兄の変化を肌で感じるそうです。

オープンダイアローグの思想の活用で 寛解や病気自体の予防につながると信じ、斎藤環先生の下で研究していられます。オープンダイアローグの介入時のスタッフの質を測る尺度は存在するけれども 介入を受けた当事者や家族の主観を測定する尺度はないそうです。対話に焦点を当ててウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）や孤独感との関係を研究した事例は国内外に見当たらず、福士さんはそこを研究しているそうです。

当事者や家族が 支援者（通院先の医師、看護師、ソーシャルワーカーなど医療関係者、その他の支援組織、ボランティアなど）と望ましい対話ができているかどうかを測定する尺度作りの為のアンケートを持参されました。

アンケートにはサロンあゆみに来ていた人全員と 当事者用アンケートには持ち帰れる人で参加しました。

これからの予定

●2月定例会 SST 2月14日（金）13：30～16：30

ひらつか市民活動センター A会議室 講師 高森信子先生

●サロンあゆみ 自由交流 2月21日（金）13：00～15：30

ひらつか市民活動センター B会議室

●心理勉強会 3月28日（金）13：00～16：00

ひらつか市民活動センター A会議室 *会場の都合で3/21より変更になりました

●精神保健福祉ボランティアグループこんぺいとう

2月8日（土）13：30～15：30 お茶会

中央公民館 3F 和室 参加費 100円

2月22日（土）11：00～14：00 サロン 福祉会館 参加費 300円

